

ウォーキング

三岐鉄道北勢線：ねじれ橋・めがね橋などの沿線を歩く

令和8年7月11日（土）

1. ルート 三岐鉄道北勢線・楚原駅～ねじり橋～めがね橋～八幡神社～天王橋～
おかげ参り常夜灯～三岐線・丹生川駅

7.0 km (12,000 歩)

2. 参加者 伊橋健治・市川義行・伊藤利男・喜吉 雄・中村 衛・濱田 一
6 名

3. ドキュメント

参加者は近鉄桑名駅前に降り立ち、9時30分集合して三岐鉄道北勢線の西桑名駅からウォーキングの出発点楚原駅に向かう。この電車は四日市の「あすなろう鉄道」と同じ軌道で日本一小さな車両と言われている。車両の天井には扇風機が回っていてレトロの感じである。どこかに冷房施設は取り付けられているのであろう。10時15分楚原駅に降り立つ。



三岐鉄道北勢線の車両



扇風機のある車内



楚原駅前でパチリ

楚原の町中を 15 分ほど歩いていくとねじり橋とめがね橋の案内が出ていたので小径を下っていくと手入れの行き届いた庭の屋敷が目につく、その庭に狸の焼き物が並べられ通行者を監視しているようにこちらを見ている。今日の参加者の風貌に似ているように見えるのは感じすぎか。



タヌキが数匹



ねじり橋の案内



ねじり橋



ねじり橋

案内板に沿って草の生い茂る小径を行くとコンクリートで造られた鉄道橋が現れる。確かにねじれている。文献によると橋と用水路が斜めに交差しているのでこのような構造になったとのこと。因みに下を流れる用水路は、江戸時代に造られたもので「六把野井水」と呼ばれている。この橋とめがね橋は土木工学上の遺産でコンクリートブロック製のものは貴重で三重県では大切に保存している。5 分程歩くと三連のめがね橋が現れる。少しの時間差で橋を渡る電車を写すことは叶わなかった。



めがね橋



八幡神社・ブルーの●が砲弾、尖ったのが機雷



広陵とした田園

めがね橋のすぐ近くに八幡神社が祀られている。戦時中の機雷と砲弾が神殿に据えられた珍しい神社である。木陰で給水タイムを摂る。11時で既に30℃を超えているのであろうか？汗が噴き出て止まらない。鈴鹿の山々にはガスがかかり蒸し暑さも重なっている。今回は気温等の状況によって阿下喜までの10km、丹生川駅の7km、麻生田駅で打ち切る5kmのコースを用意して歩きはじめたけれど7kmのコースで意見が一致したようで暑さに耐えながら歩く。因みにこの日の3日後、桑名では37.9度を記録している。

この付近は山の中で田畑は少ないと思っていたが私の思い違いで豊富な水と広々とした土地に恵まれて田園が広がっている。



鉄橋を渡る列車に遭遇



昔ながらのコンクリート橋・山田橋

北勢線に沿って歩くも山田川には橋がなく少し上流に架かる山田橋まで迂回して渡る。また線路沿いに戻り少し歩くと右前方に麻生田の町が見えてくる。このあたりから線路は山の中へ入っていった。計画では麻生田の町中に立ち寄る予定であったが歩く距離を縮めるため員弁川の左岸を進む。前方に藤原岳などの鈴鹿の山が見えるけれどもやはりガスはとれない。益々暑さを感じる。



員弁川の左岸を歩く



員弁川に架かる天王橋から見る上流

員弁川に架かる天王橋を渡り、高速東海環状線を潜って国道 365 号を横切っていなべ市大安町に入る。時既に 12 時 30 分、昼食場所を探すも適当なところがなく地元の人に尋ねてみると「おかげ参り常夜灯公園」へ行ってみたらと助けてくれた。極小さな常夜灯の設置場所であったが木陰もありお昼の休憩を摂るには充分であった。1 時間余りの時間を過ごして三岐線の丹生川駅に向かう。10 分ほどで駅に着き、電車に乗り込むと冷房の効いた車内にほっとする。富田駅で近鉄に乗り換えて帰宅する。年齢とともに夏のウォーキングは厳しいと感じたのは私だけか。



おかげ参り常夜灯公園



公園の木陰でお昼休み